



JSME TOKAI STUDENT BRANCH NEWSLETTER

日本機械学会東海学生会ニュースレター No. 32

東海学生会 幹事挨拶



豊田工業大学 工学部 機械システム分野
佐々木 実

東海学生会の幹事を仰せつかりました佐々木と申します。本学生会は、東海4県の大学・高専17校所属の機械系学生員で構成されます（本レターの最終ページ参照）。日本機械学会学生会通則によると、本会は「学生員の学会活動を盛んにすることを目的とし、かつ学生員相互の親睦をはかる。」とあります。事業企画の例には「講演会、学生員卒業研究発表講演会」と硬めの学術集会が当然出てきますが、「見学会、映画会、親睦会」と柔らかい会合内容、「その他学生会の目的にかなう事業」までが含まれており、広い自由度があります。

折角の機会なので、教員として、機械工学への興味をより高める刺激や、将来活躍するための糧を、皆さんに少しでも提供できればと願っています。同時に、1世代以上離れた若い学生員のことを知りたいとも思っています。

活動が盛り上がるよう、顧問の先生方と協力して企画・運営していく方針です。学生の皆さんにとって楽しく魅力的な企画となるよう、アイデアを出し合い、また活動に参加して頂けるよう、ご協力をお願いいたします。

東海学生会委員長挨拶



豊田工業大学 大学院工学研究科
三浦 舞子

この度、令和8年度東海学生会委員長を務めさせていただきます三浦舞子と申します。

幼い頃、趣味でロボットを扱っていた父の影響もあり、機械がガチャガチャと音を立てて動く様子に子供心にかっこいいと衝撃を受けたことが、機械分野に興味を持つきっかけとなりました。多くの分野の技術や知識を融合させて一つのものを完成させていく機械工学の醍醐味に憧れました。何もないところから自分の手で形を作り上げ、それが実際に動いた時の達成感は、今も私の大きな原動力となっています。

東海学生会も、このような驚きや発見を共有できる場でありたいと考えております。新しい環境に身を置き、多くの方と関わる中で得られる視点や学びは、自身の成長につながるものと感じております。本学生会は愛知、岐阜、三重、静岡の4県に所在する17校の大学および工業高等専門学校で構成されております。分野を超えたかかわりの中で、互いに刺激を受け、技術や知識を融合させながら、それぞれの研究を深めていける環境を築いていければと考えております。こうした交流を通して、新たな学

びや発見が生まれる場となることを願っております。

これまで多くの研究者の方々によって築かれてきた歩みに敬意を表しつつ、その積み重ねの上に今の私たちの学びや研究が成り立っていることを改めて認識しております。そうした背景を大切にしながら、これからの時代を担う皆様とともに学びを深め、新たな可能性を広げていければと願っております。

初めて学生会委員長という大役を務めさせていただくにあたり、不慣れな点もあるかと存じますが、学生会のさらなる発展を目指して尽力してまいりますので、各行事へのご参加およびご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、本学生会の活動に日頃よりご支援とご助言を賜っております先生方、ならびに行事の企画・運営に尽力いただいている学生運営委員の皆様、心より感謝申し上げます。今後ともご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 57 回学生員卒業研究発表講演会

2026 年 3 月 10 日に、東海学生会最大のイベントである TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2026 (TEC26) 第 57 回学生員卒業研究発表講演会が昨年に続き完全対面開催された。講演には 118 件の申込みがあり、6 部屋パラレルでの実施とした。学生・教員・企業所属者合わせて 207 名の参加があり、各講演室で活発な議論が交わされた。本年度から実施したスポンサー企業による説明会には 65 名、懇親会には 91 名の参加申込みがあり、共に盛況であった。Best Presentation Award には 82 件のエントリーがあり、教員の厳正な審査によってこのうち 12 名に贈賞した。実行委員や開催校となった愛知工業大学の先生方、審査に協力いただいた先生方のご尽力のお蔭で大きな混乱はみられず、参加者の満足度は概ね高かったと考えている。懇親会で実施したブース展示も学生、出展者の満足度は高いよ

うであり、今後更なる規模を拡大して実施することを検討されたい。

一方で課題も残された。懇親会の料理や飲み物についてである。料理や飲み物が早々になくなってしまった。物価高ではあるものの、次回は予算を増やすなどして内容を充実させ、楽しく交流を深める場の提供に努めていただくことが良いと考えられる。スポンサー企業からの費用をそのまま懇親会費に充てることも考えるべきかと考える。

懇親会の中で、優秀講演賞にあたる Best Presentation Award の表彰式が行われました。教員の厳正な審査によって以下の 12 名の学生員が受賞しました。受賞報告の寄稿もいただきましたので次項に掲載いたします。おめでとうございます。

- | | |
|--------|------------|
| ・石川 幹 | (名古屋大学) |
| ・石原 大地 | (名城大学) |
| ・上野 誠太 | (名古屋大学) |
| ・大野 智暉 | (名古屋工業大学) |
| ・奥寺 大 | (名古屋大学) |
| ・熊澤 温志 | (名古屋工業大学) |
| ・立木 美香 | (名城大学) |
| ・寺崎 健太 | (名古屋工業大学) |
| ・中西 壱瑤 | (豊橋技術科学大学) |
| ・丹羽 航平 | (名古屋大学) |
| ・番場 園巴 | (名城大学) |
| ・六厩 賢星 | (名古屋工業大学) |

(50 音順)



懇親会の様子

Best Presentation Award 受賞報告



名古屋大学
石川 幹

この度、第 57 回学生員卒業研究発表講演会におきまして、Best Presentation Award を受賞する栄誉にあずかりましたことを、大変光栄に存じます。本講演会は、私にとって初めての学会発表でした。産業廃棄物の灰が焼却炉内に付着するのを抑制する効果を開発材料と従来材料で比較して調べた内容ですが、十分説明できるか、不安もありました。しかし、研究室の皆様から多くの貴重な助言をいただき、発表練習や資料の推敲を重ねることで、当日は自信をもって発表に臨むことができました。ご指導・ご鞭撻を賜りました成瀬一郎教授をはじめ、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。加えて、貴重な発表の場を設けてくださり、本講演会を主催してくださいました日本機械学会東海学生会関係者の皆様に対しましても、深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もより一層、研究活動に精進してまいります。



名城大学
石原 大地

この度、第 57 回学生員卒業研究発表講演会において Best Presentation Award を受賞する名誉を預かりましたこと大変光栄に思います。

はじめに、日頃の研究成果を発表する貴重な機会をご提供いただき、本講演会をご主催いただきました日本機械学会東海学生会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本研究の遂行から発表に至るまで丁寧なる御指導、御鞭撻を賜りました横田紘季准教授ならびに、日頃より親身な御助力、御助言をいただき研究を後押ししてくださった先輩方をはじめ、研究室の皆様にご心から厚く御礼申し上げます。

私は、脳波信号から筋活動量を推定する研究に取り組んでまいりました。研究において特に困難であったのは、システム構築の土台となるデータ計測です。脳波信号はノイズの影響を受けやすいため、環境や条件の調整に試行錯誤を重ね、幾度となく計測を繰り返しました。このような地道な検討と実験の積み重ねによって得られた成果が、今回の受賞につながったことを心から嬉しく思います。

この度の受賞を大きな糧とし、今後の研究活動においてもより一層精進してまいります。



名古屋大学
上野 誠太

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会にて「Best Presentation Award」を受賞できたこと、大変光栄に思います。

研究に 1 年間取り組んできた集大成として、今回の発表に臨みましたが、発表練習を重ね、十分な準備をして臨むことができたと感じて

おります。当日の質疑応答におきましても、先生方から大変興味深く貴重なご質問をいただき、心より感謝申し上げます。

今後も、大学院に進学しさらに研究を深めていく予定です。今回の受賞を大きな励みとし、より一層研究に邁進し、再び皆様に有意義な研究成果をご報告できるよう精進してまいります。

最後になりますが、日頃より熱心なご指導ご鞭撻を賜りました永島壮准教授をはじめとする研究室の皆様、また日本機械学会東海学生会関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



名古屋工業大学
大野 智暉

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会において Best Presentation Award を受賞することができ、大変光栄に存じます。

本講演では、枚葉式洗浄装置から飛翔する液滴の挙動に関する研究について発表いたしました。本講演は私にとって初めての学会発表であり、研究内容をどのように伝えるべきか試行錯誤しながら準備を進めました。その過程では、多くのご助言をいただき、研究内容や発表資料を見直す貴重な機会となりました。

また、発表や質疑応答を通して、自身の研究を改めて客観的に見つめ直すことができました。その中で、研究の成果をより明確に示すためには、さらなるデータの取得や解析が必要であることを再認識し、新たな課題も見えてまいりました。今回の受賞はこれまでの取り組みが評価された結果であると同時に、今後の研究を

さらに発展させていくための大きな励みとなりました。

最後に、本講演会の開催にご尽力くださいました日本機械学会東海学生会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、日頃よりご指導いただいた名古屋工業大学 玉野真司教授、武藤真和助教、仁村友洋特任助教をはじめ、研究室の先輩方、日々支え合ってきた同期の皆様、ならびに共同研究先である SCREEN ホールディングスの皆様に深く感謝申し上げます。



名古屋工業大学
熊澤 温志

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会において、Best Presentation Award を賜りました。私にとって初めての学会発表での受賞であり、誠に光栄に存じます。

本研究は半導体製造における枚葉式洗浄で生じる飛翔液滴の形状変化に着目した数値計算の内容であり、産業的な応用を見据えて取り組んでいます。発表の準備では、研究室の先生方や先輩方に、研究方針や発表内容について長時間にわたり議論していただきました。この準備を通じて、本研究が研究室や共同研究先からの研究費・設備面を含む多くの支援によって成り立っていることを改めて認識しました。

発表当日は、他大学の学生の皆様の発表や質疑を拝聴し、応用研究として目的を達成することの難しさとやりがいを感じました。発表後の質疑応答では、普段とは異なる角度からご質問をいただき、研究課題に対する考え方を広げるきっかけとなりました。

最後に、本講演会の関係者の皆様、ならびに本研究にご指導・ご支援いただいた名古屋工業大学 玉野真司教授、武藤真和助教、仁村友洋特任助教、研究室の皆様、共同研究先であるSCREEN ホールディングスの皆様に心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も感謝の気持ちを忘れず、研究に真摯に取り組んでまいります。



名城大学
立木 美香

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会において **Best Presentation Award** を頂き、大変光栄に思います。

はじめに、本講演会を主催してくださいました日本機械学会東海学生会関係者の皆様に対し、深く感謝申し上げるとともに、厚く御礼申し上げます。

また、研究の基礎から発表の技術まで多大なるご指導・ご鞭撻を賜りました名城大学の横田紘季准教授をはじめ、日々の研究生活において御助力いただいた先輩方、そして切磋琢磨しあってきた同期の皆様にも深く感謝申し上げます。

私は、眼電図を用いた意思伝達支援システムの開発を目指して研究に取り組んでまいりました。日々の研究活動において、自らの考えや成果を論理的に言語化し、他者に分かりやすく伝えることに難しさを感じる場面が多くありました。その中で試行錯誤を重ねる過程そのものが自身の研究内容を見つめ直す貴重な機会

となりました。本番での発表を通じて、自分の言葉で成果を届ける喜びを知ることができたことは、大きな自信と成長に繋がったと感じております。

今回の受賞を励みに、今後もより一層、研究活動に精進してまいります。



名古屋工業大学
寺崎 健太

この度は、日本機械学会東海学生会第 57 回学生員卒業研究発表講演会にて、**Best Presentation Award** をいただき、大変光栄に存じます。

本講演会は、私にとって初めての研究室外での発表でした。不安や緊張もありましたが、指導教員の杉田修啓教授をはじめとする研究室の皆様のご指導により、満足のいく発表をすることができました。研究を進めるうえで、困難に直面した際にも、皆様からいただいた助言が大変助けになりました。

また、発表練習やスライド構成などについては、同級生からも多くの助言をいただきました。切磋琢磨し議論したことで、互いに研究内容に対する理解を深めることができました。大学院へ進学後も、今回得た経験を生かして、より一層注力して研究活動に取り組んでまいります。

最後に、杉田修啓教授をはじめとする研究室の教員や学生の皆様、そして本講演を主催していただいた日本機械学会東海学生会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



豊橋技術科学大学

中西 瑋瑛

この度は東海学生会第 57 回学生員卒業研究発表会におきまして、「ミドリムシの走光性を利用した微小物体の高精度位置制御技術の開発」という題目にて **Best Presentation Award** を受賞することができ、大変光栄に思います。

本講演会での発表に向け、受賞を目標として資料作成や発表練習に取り組んできました。生物を扱う研究であったため、当初は未知の領域も多くありましたが、基礎から一つ一つ理解を積み重ねることで研究内容への理解を深め、正確に説明できるよう努めてきました。また、限られた発表時間の中で専門分野の異なる方々にも研究内容を分かりやすく伝えるため、教授や先輩方から助言をいただきながら、資料構成や説明方法を何度も見直し改善してきました。その成果をこのような形で評価していただけたことは大きな自信につながりました。今回の受賞を励みに、今後は大学院においても研究活動に一層励み、より高い成果を目指して努力してまいります。

最後になりますが、本発表に際しましてご指導ご鞭撻を賜りました永井萌土先生をはじめとする研究室の皆様、そして講演会を主催してくださいました日本機械学会東海支部関係者の皆様に、深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。



名古屋大学

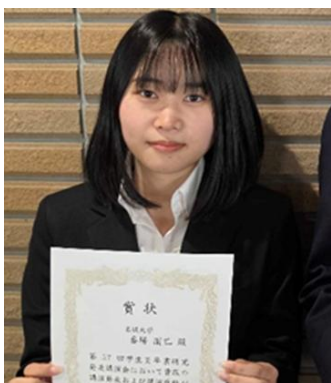
丹羽 航平

この度は第 57 回学生員卒業研究発表講演会におきまして、**Best Presentation Award** を受賞することができ、誠に光栄に存じます。

本発表は、私にとって初めての学外発表であり、準備を進める中で、自身の研究内容を聞き手の方々に分かりやすく伝えることの難しさを実感いたしました。本研究では、6 歳児モデルを用いた前面衝突時の挙動解析を対象としており、専門的な内容をいかに簡潔に伝えるかについて特に工夫を重ねました。その過程において、同じ研究室の方々から多くのご助言をいただき、より伝わりやすく、見やすいスライドに仕上げることができました。

これまで人前での発表に苦手意識を持っておりましたが、今回の受賞を通して、大きな自信を得ることができたと感じております。また、本発表を通じて、研究内容を客観的に見つめ直す重要性についても学ぶことができました。今後もさらなる研究の発展に努め、研究成果を的確に発信できるよう精進してまいります。

最後に、本講演にあたりご指導・ご鞭撻を賜りました名古屋大学の水野幸治教授ならびに趙雨晴助教をはじめ、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



名城大学
番場 園巴

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会において、**Best Presentation Award** を受賞することができ、大変光栄に存じます。

本講演では、解剖学的筋骨格モデルに基づく受動型短下肢装具の設計支援を目的とした動力学シミュレーション環境の構築について発表いたしました。初めての学会発表ということもあり、大変緊張しましたが、視覚的な分かりやすさと論理的な説明を意識し、研究の意義や有用性が聞き手の皆様に伝わるよう努めました。その結果、今回の受賞という形でご評価いただけたことを大変嬉しく思います。特に、シミュレーション環境の構築には多くの試行錯誤を要しましたが、粘り強く研究に取り組んだ成果が実を結んだものと感じています。

本研究を進めるにあたり、ご指導・ご鞭撻を賜りました横田紘季准教授をはじめ、多くのご助言をいただいた先輩方、そして励まし合いながら共に研究に取り組んだ同期の皆様に心より感謝申し上げます。また、貴重な発表の機会をご提供くださいました日本機械学会東海学生会関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みとして、一層研究活動に熱意をもって取り組み、さらなる成果を目指して努力してまいります。



名古屋工業大学
六厩 賢星

この度は、第 57 回学生員卒業研究発表講演会にて **Best Presentation Award** という栄誉ある賞をいただき、光栄に存じます。

本研究では、脳梗塞治療に用いられるステントリトリバーの引き抜き時に生じる血管内応力場の評価手法の開発に取り組んでいます。機械系の視点から医療に関わる現象を扱うため、背景知識の理解や結果の解釈に難しさを感じる場面も多くありました。本研究成果をまとめて発表するにあたり、限られた時間で背景や解析結果の意義が伝わるよう、図の見せ方や説明の順序を見直しながら準備を進めました。その過程では、先生方、先輩方、同期の仲間達から意見をいただき、自分の研究を整理する貴重な機会にもなりました。今回の評価を大変嬉しく感じております。今後はこの経験を糧に、研究成果を社会に還元できるよう努めてまいります。

最後になりましたが、本講演会を運営いただいた日本機械学会東海学生会関係者の皆様に御礼申し上げます。また、日頃より丁寧にご指導いただいている名古屋工業大学 武藤真和先生、玉野真司先生、名古屋市立大学 西川祐介先生、研究室の先輩方、そして共に研究に取り組んできた同期の皆様に、心より感謝申し上げます。

メカライフの世界展

『機械工学で創る未来』

開催日時：2025 年 8 月 2 日，3 日

開催場所：岐阜工業高等専門学校

参加人数：1241 人

岐阜高専オープンキャンパス機械工学科のテーマとして，現在，そして未来を支える様々な機械工学分野の紹介と展示を行った．合わせて，機械工学科カリキュラムの特徴，授業で行っている設計・製作実習などの紹介も行った．

来場者（主に中学生）が機械工学の多様な分野を体験できるように，以下①から⑨のテーマごとにブースを設置した．2 日間とも朝 9 時から 5 時間，展示と紹介を行った．主に学生スタッフ（4 年生・5 年生・専攻科生，計 55 名）が，これまでに習得した知識を基に，来場者に展示物を実際に触ってもらいながら原理・動作等の説明を行った．

- ①エアコンの仕組みと原理
- ②数値シミュレーション紹介
- ③ロボットの展示
- ④形状記憶合金・ペルチェ素子の展示
- ⑤人の声と流れの可視化
- ⑥卓上風洞装置の展示・実演
- ⑦最適設計の実用化展示
- ⑧レーザー加工機実演
- ⑨ミニ四駆で知る機械工学

併せて機械工学科カリキュラムの特徴，そして以下の授業で行っている設計・製作実習，そして卒業研究などの紹介を行い，実践的な教育の一部を来場者に知ってもらった．

- ①使用教科書展示
- ②CAD を使った図面の説明
- ③CAE を使った応力解析
- ④実習での製作品展示
- ⑤Arduino を使った情報処理教育
- ⑥機械工学科で行っている卒業研究の紹介

また，機械工学科所属の多数の女子学生の協力を得て，女性から見た機械工学の魅力を伝えたことは有意義な試みであった．



展示を説明する学生スタッフ

『人の生活や娯楽を支える機械システムの展示・実演』

開催日時：2025 年 10 月 11 日，12 日

開催場所：豊田工業高等専門学校 ものづくりセンター

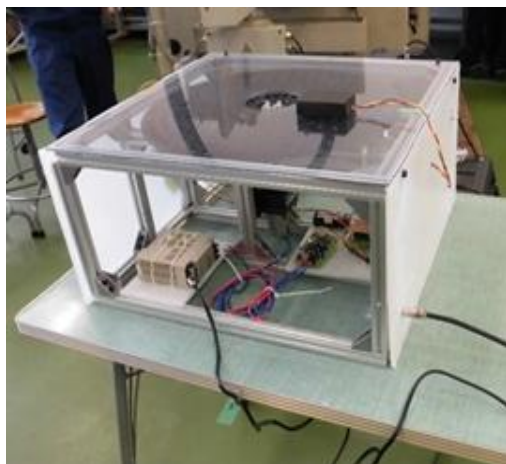
参加人数：1365 人（豊田工業高等専門学校オープンキャンパス来場者数）

例年，本校オープンキャンパス時に，豊田高専機械工学科の学生達が創作した機械システムを展示・実演している．その展示内容は，A～D の 4 班にグループ分けされた学生達が主体となり，それぞれが製作した異なる機械システムである．来場者への説明はアイデアを考案した学生達が行った．これまでの実習・講義で培った技術と知識を生かし，自作した機械システムの説明・実演を行い，来場者に原理や構造について簡潔で分かりやすい説明を行うと共に機械工学への興味を持ってもらった．

4 班のうち C 班の展示物（扇風琴とドラムの自動演奏装置）について説明する．扇風琴は，一定感覚で穴の開いた円盤を回し，円盤の下から照射する光が穴を通過し，その光をセンサーで読み取り，スピーカーから音が鳴る仕組みである．演奏は，ハイハットとスネアドラムに 3 つ，バスドラムに 2 つの打撃装置を取りつけ，ハイハットとバスドラムを表拍，スネアドラムを裏拍とし，3 拍目のスネアドラムの演奏が連符となる．プログラムを書き換えたり，打撃装置の配置や数を調整することで他の楽曲の自動演奏も可能である．楽器は購入せず，すべて自作である．スネアはふりいとプラ板，ハイハットは真鍮板，バスドラムはアイスクリーム容器で製作した．打撃装置はソレノイドとばねで製作した．ハイハットにはオープン

クローズ機構をつけ音が変化する. オープンクローズ機構にはソレノイドと押しばねを用いシーケンスで制御している.

各班のアイデアを実現した機械システムを一般公開することができ、成功裏に終わった.



C 班の展示物：扇風琴とドラムの自動演奏装置

『メカライフの世界展 ―学内の”困った”をメカの力で解決―』

開催日時：2025 年 11 月 1 日，2 日

開催場所：鈴鹿工業高等専門学校

参加人数：約 5000 名（鈴鹿高専 高専祭の来場者数）

毎年通り，鈴鹿高専の高専祭と同時開催の形で，機械工学科ではメカライフの世界展を実施しました．機械工学を生かした様々な装置を製作し，展示とデモ行いました．

2025 年度のテーマは，A：生活の困りごとを解決するロボットと B：アミューズロボットとしました．具体的には以下のロボットを製作しました（参加：学生 44 名，教員 10 名）．

A：困ったを解決するロボット

1. ペットボトルキャップ外しロボット
2. 床清掃無人ロボット
3. 工場廃熱利用装置

B：アミューズメントロボット

4. 的あてゲーム：スポンジ発射装置を可動式的的に当て得点を競う
5. あっち向いてホイじゃんけんロボット：ロボット相手にじゃんけんを行い，あっち向いてホイを行う
6. ボール運搬ロボット：小型ロボットでフ

ィールドに散らばったバスケットボールを回収する．そのスピードを競う

7. コマ回しロボット：電動でコマを回すロボット

8. クイズロボット：クイズに答えるとリアクションをするロボット

上記ロボットは第 4 学年機械工学科の学生がアイデア創出から製作まで約半年間をかけたものです．修得した機械工学の知識や加工技術が応用されています．高専祭の 2 日間，製作者自らが展示し，来場者にプレゼンテーションやデモを行いました．本校機械工学科学生のモノづくりに関するスキルアップと，来場者への機械工学やモノづくりの楽しさのアピールができたと考えます．



メカライフの世界展の様子
（場所：第二体育館）

東海バイオメカニクス研究学生交流会

名古屋工業大学 氏原嘉洋

開催日時 2025 年 9 月 19 日

開催場所 名古屋大学 工学部 2 号館

参加人数 学生 40 名 教員 8 名

2025 年 9 月 19 日，名古屋大学において「東海バイオメカニクス研究学生交流会」を開催しました．本交流会は，東海地区におけるバイオメカニクス研究の一層の発展と若手研究者の育成を目的として，名古屋大学および名古屋工業大学のバイオメカニクス関連研究室が中心となり，毎年持ち回りで開催しているものです．

本年度は，昨年度の開催において発表件数が多く，十分な質疑応答の時間を確保できなかったという反省を踏まえ，講演数を 20 件に絞り，

修士課程2年の学生を中心とした発表構成としました。これにより、各発表に対してより深い議論を行うことができ、発表者・聴講者双方から多くの質問や建設的な意見交換がなされました。発表テーマは、細胞・組織の力学解析から医工学応用に至るまで多岐にわたり、各研究室の特色が活かされた内容となりました。

また、講演会後に行われた交流会では、発表内容に関するさらなるディスカッションに加えて、研究手法や日常の研究室活動、今後の進路などに関する率直な意見交換が活発に行われました。分野や大学の垣根を越えた交流を通じて、学生同士の新たなつながりが生まれるとともに、研究に対する新たな視点や刺激を得る貴重な機会となりました。

本交流会を通じて、次世代の研究者が互いに切磋琢磨し、東海地区のバイオメカニクス研究のネットワークをより一層強化することができたと考えています。



講演会の様子

東海支部講習会と共催の交流会

愛知工科大学 阿部 己和

開催日時 2025年11月4日

開催場所 名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館

参加人数 学生66名、教員6名、講師2名、幹事等5名、他6名

講習会では、工作機械の最新動向として、DMG森精機の栗谷講師と春日井講師からDMG森精機のMX戦略についての紹介や最新の工作機械や加工技術についての講習が行われた。参加する学生からの質問も活発であった。

メカナビ東海との協力によって、企業紹介として、ジェイテクトコラムシステム、テクノホライゾン、吉野石膏からの説明もあり、多様な業種があることや知らないことも多く学んだ。研究ポスター発表会では37件の発表があり、こちらも盛り上がった。交流会には、ほとんどの学生や教員、企業の方が参加して、発表会の内容に関する議論だけでなく就活についての情報交換などを行い、交流を深めることができた。



交流会の集合写真

鈴鹿サーキットバックヤード見学

愛知工科大学 大平 哲也

開催日時 2025年8月24日

開催場所 鈴鹿サーキット

参加人数 学生10名、教員2名

本イベントは鈴鹿サーキットにて開催されたSuper GTのバックヤード見学とレース観戦を通じて、自動車技術の進化およびレース裏舞台を支える様々な技術と運営の実際を知ること、機械技術修学のモチベーションを高め、会員相互の研鑽を図ることを目的としました。

当日はレース競技長はじめ関係者の方々のご協力のもと、通常は見ることができない施設内を見学できました。サーキット各所に設けられたカメラの映像がずらりと並ぶコントロールルームでは、計時の仕組みやペナルティの判定プロセスを教えていただきました。Super GTの前に行われたFIA-F4レースで、接触事故等に対応するスタッフの方々のリアルな様子を感じ取っていました。

次に、Super GT第5戦の決勝レースに向けて準備中のパドック(GT500クラスのトップを

独走する au TOM'S GR Supra チーム！）に立ち入らせていただき、実車を見ながらチーム監督からレースに対する熱意のこもったお話を伺うことができました。

また、レースの合間にサーキットコースをバスで見学し、ゲームと異なり、コースは想像以上に勾配や起伏があることが確認できました。決勝レースをグランドスタンド Gazoo ファンシートから間近で観戦した際には、難しい路面、コースをいかに速く駆け抜けるか、機械工学を駆使してレースに臨んでいる車両やチームの技術の難しさを実感しながら応援していました。

車検場の見学も含めて、バックヤードを見学することで、レース走行を公正に判定する技術や運営も見聞でき、大変貴重な機会になりました。



Super GT 決勝レース直前のメインストレート
にて撮ったグループ写真

日本機械学会東海学生会 2026年度事業計画・日程

開催月日(予定)	行事・企画名	担当校	開催場所
2026年 6～9月	第1回顧問会	豊田工業大学	オンライン
	第1回幹事校会・学生会員校運営委員総会	豊田工業大学	ハイブリッド検討中
	第1回卒業研究発表会実行委員会	実行委員会	〃
	第1回見学会	豊田工業大学	検討中
10～12月	第1回講演会（研究交流会）	未定	未定
	第2回幹事校会・学生会員校運営委員総会	豊田工業大学	ハイブリッド検討中
	第2回卒業研究発表会実行委員会	実行委員会	〃
	第2回見学会	豊田工業大学	検討中
2027年 1～2月	第2回講演会（研究交流会）	検討中	検討中
	第2回顧問会	豊田工業大学	オンライン
	第3回幹事校会・学生会員校運営委員総会	豊田工業大学	オンライン
3月15日	第3回卒業研究発表会実行委員会	実行委員会	オンライン
	第58回卒業研究発表講演会	実行委員会	静岡大学

機械工学振興事業(メカライフの世界展)

開催日(予定)	実施校	テーマ
8月1日～2日	岐阜工業高等専門学校	機械工学で創る未来 2026
11月初旬	鈴鹿工業高等専門学校	メカライフの世界展—ちょっと役に立つ大道芸ロボットで生活を楽しく—

東海学生会運営委員・顧問 名簿

会員校	運営委員	顧問	会員校	運営委員	顧問
愛知工科大	該当者無し	鈴木宏昌	豊田工業大	三浦舞子・森 靖堯	椎原良典
愛知工業大	細川和宏・中西泰暉	松井良介	豊橋技術科学大	森川 倭・川田貴優	高橋淳二
岐阜高専	馬渕巧都・毛利祐太	片峯英次	名古屋工業大	林 祐稀・平田 翼	中村匡徳
岐阜大	陶山魁人・池上功晟	畝田道雄	名古屋大	伊吹 樹・中野清多郎	長野方星
静岡大	島田康平・宮田怜緒真	益田 有	沼津高専	関谷壮馬・古川碧	山中 仁
静岡理工科大	百鬼大翔・阿部宏紀	飛田和輝	三重大	亀田理人・宮本匠基	吉川高正
鈴鹿高専	吉原弦希・光岡春平	近藤邦和	名城大	伊藤大輝・齋藤 守	吉川泰晴
大同大	川添将太郎・平岩優斗	柚谷 啓	学生会委員	三浦舞子（委員長）・森 靖堯（幹事）	
中部大	榊原奨哉・鈴木優真	浅井 徹	学生会担当	佐々木実（委員長）・山本高久（幹事）	
豊田高専	朝日 湊・松崎将己	神永真帆			